

## 豚熱ワクチン接種農場で豚熱患畜確認 飼養衛生管理の再徹底を!!!

令和2年12月25日に山形県、同月29日に三重県で豚熱ワクチン接種農場における豚熱の患畜が相次いで確認されたところです。

豚熱ワクチンを接種していてもすべての豚が免疫を獲得できているわけではなく、また、すべての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難を伴うことから、豚熱ワクチン接種農場においても免疫を獲得していない豚が存在します。

ワクチン接種の有無にかかわらず、家畜防疫の基本は飼養衛生管理基準の遵守徹底になりますので、再度ご自身の農場の防疫対策を確認し、衛生管理の徹底をお願いいたします。

- 車両・物や畜舎周囲の消毒はしていますか？
- 衛生管理区域入場時の長靴・衣服の交換・消毒はしていますか？
- 毎日の健康観察はしていますか？
- 野生動物の侵入防止はしていますか？

※野鳥等の野生動物の畜舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等への侵入を防止することができる防鳥ネットその他の設備の設置が義務付けられました。(令和2年11月施行)  
防鳥ネットの設置が完了していない場合や破損している場合は速やかに対応をお願いいたします。

食欲不振や死亡頭数の増加等の豚熱を疑う症状  
（「特定症状」）が確認された場合には速やかに  
家畜保健衛生所にご連絡ください。



神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

電話 0463-58-0152 ファクシミリ 0463-58-5679

# 豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

- ①ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではないこと、②全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難であることから、ワクチン接種農場においても免疫を獲得していない豚が存在。
- このため、ワクチン接種農場においても、豚熱ウイルスの農場侵入防止のための、飼養衛生管理の徹底と豚に異状がみられた場合の早期通報が必要不可欠。

## ①免疫付与率80%

■ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではない。

- ・ワクチンの抗体付与率は80~90%

## ②子豚

■全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難。

㊦ 母乳を通じて母豚から移行する免疫の量が多い期間は、接種してもワクチンウイルスが排除され、ワクチンの効果がない

㊧ 母豚から移行した免疫の量は漸減していくため、適切な時期にワクチンを接種すれば、効果が発現

- ・用法・用量では、1~2か月齢での接種を推奨
- ・現状、50~60日齢程度での接種が望ましい(牛豚小委議論)

㊨ しかしながら、個体によりワクチンの適切な接種時期に差異があることから、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種することは困難

